

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 3月

基準日 定時株主総会 12月31日
剰余金の配当 期末 12月31日
中間 6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先・照会先 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号(〒541-8502)
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話(通話料無料) 0120-094-777

公告の方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。(https://www.corp.i-pex.com)
ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、
日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求、配当金の振込指定、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

<https://www.corp.i-pex.com>

I-PEX

検索

IRニュース等、最新の情報は随時
こちらからご確認いただけます。



I-PEX

第59期 年次報告書

2021年1月1日～2021年12月31日

I-PEX株式会社

I-PEX株式会社

社長インタビュー

Interview with the President

デジタルなものづくりを 実践できる技術力を持つ 企業を目指します。

代表取締役 社長執行役員 土山 隆治



第59期(2021年12月期)の業績について

コロナ禍による社会構造の変化が好業績を後押し

まず、電気・電子部品事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、リモートワーク等が急速に普及したことから、パソコン向けのコネクタを中心に年間を通じて好調に推移しました。また、巣ごもり需要等にも支えられ、モバイルルーター等のネットワーク機器に使用されるコネクタも伸長しました。HDD関連部品は、通信の高速・大容量化が進展していることを受けて、データセンター向け大容量HDDの部品需要が増加しました。

自動車部品事業は、部材不足やサプライチェーンの混乱等に伴い、年末にかけて自動車メーカーが減産に転じた影響を一部受けましたが、旺盛な自動車需要に支えられ、車載用セン

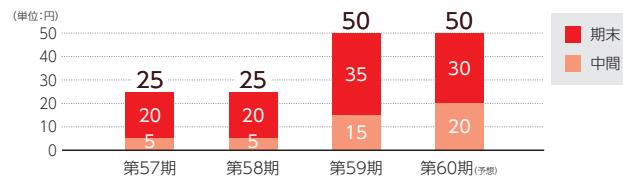
サやLEDヘッドライトに使用されるコネクタが概ね堅調に推移しました。

設備事業は、深刻な半導体不足が継続する中、半導体メーカーが増産のための設備投資を積極的に行ったことから、半導体樹脂封止装置や自動テープ貼付機等の半導体関連設備の受注が大幅に増加しました。

グループ全体としては、すべての事業において前年を上回る実績を残すことができ、過去最高の売上高を記録する等、業績面において大変好調な1年となりました。

以上のようなことから、第59期においては、売上高668億円、営業利益68億円、経常利益77億円、親会社株主に帰属する当期純利益59億円となりました。この結果を受け、配当につきましては、期末配当金を1株当たり35円、中間配当を含む年間配当金を50円とさせていただきます。

■ 配当金の推移



■ 業績ハイライト

売上高	66,871百万円 (前期比 22.6% ▲)
営業利益	6,877百万円 (前期比136.2% ▲)
経常利益	7,704百万円 (前期比188.3% ▲)
親会社株主に帰属する当期純利益	5,921百万円 (前期比414.3% ▲)

第60期(2022年12月期)の重点戦略について

▶ 電気・電子部品事業

サプライチェーンの混乱が生産活動に与える影響を注視する必要がありますが、「ニューノーマル」に代表される生活様式の変化に伴い、パソコン等の製品需要は底堅く推移すると思われることから、当社の強みである高周波・高速伝送技術を深耕し、優れたシグナル・インテグリティ・ソリューションの提供に努めてまいります。今後、更なる収益基盤の強化を目指し、次世代のデジタル通信技術を支える電気・光伝送路に用いられるコネクタの開発・拡販に注力してまいります。中でも、当社の得意とする高周波・高速伝送技術を活用し、通信の高速・大容量化に伴い需要の拡大が見込まれるデータセンターや基地局をはじめとするエンタープライズ市場等、新たな事業領域への展開を促進することで、持続的な成長を実現させてまいります。

また、トルクセンサについては、人協働ロボットの関節に加え、ロボットアームに取り付けるエンドエフェクタとして使用することでコネクタの自動挿入を可能にする等、今後様々なシーンでの活用が期待されます。

▶ 自動車部品事業

半導体不足や新型コロナウイルスの変異型感染症拡大により、先行き不透明な状況が予想されますが、自動車メーカーの生産活動が徐々に回復していくものと思われることから、車載用センサやコネクタをはじめとする自動車部品の受注拡大に努めてまいります。

今後、自動車産業を取り巻く環境は、電動化やコネクテッド化、先進運転支援システム(ADAS)の進化等、大きく変化していくと思われます。そのような中、当社は電子制御系のモジュール部品や車載用の高速伝送向けコネクタ、バッテリー制御システム等の研究開発に注力し、快適で安全なモビリティ社会の実現に貢献してまいります。

▶ 設備事業

半導体製造装置関連は、半導体メーカーが積極的な設備投

資を継続することが予想されることから、市場ニーズを先取りした技術・品質・サービスを提供することで新たな需要を取り込んでまいります。特に、脱炭素や省電力化が求められる中、今後、電力の制御や変換等に使用されるパワー半導体の市場拡大が見込まれることから、車載向けを中心に差別化した技術やカスタマイズ提案等を通じて、新たな受注獲得に努めてまいります。

▶ MEMSデバイス

ニオイを「見える化」するMEMSニオイセンサにつきましては、スマートフォンに接続し、身近なニオイを手軽に計測できるパーソナルモデルの「noseStick」を2021年に商品化いたしました。今後は、従来の「nose@MEMS」と併せて、食品や介護、製造現場等の様々な分野でご使用いただけるよう、更なる技術の深耕や他企業との協業も視野に入れ、新たな市場の創造を目指し、活動してまいります。

「I-PEX Vision 2030」を策定し、企業価値向上へ 向けた取り組みを推進します。

この度、2030年に目指すべき姿を示した「I-PEX Vision 2030」を策定し、イノベーションによる快適・安全なデジタル社会への貢献を通じて、「ものづくりソリューションエキスパート」として、更なる企業価値の向上を実現すべく、様々な施策に取り組んでまいります。また、今後の当社事業を通して、気候変動をはじめとする社会的課題の解決に向けた活動を推進してまいります。

株主の皆様には今後とも当社グループへのご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

■ 第60期計画

売上高	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
612 億円	40 億円	27 億円

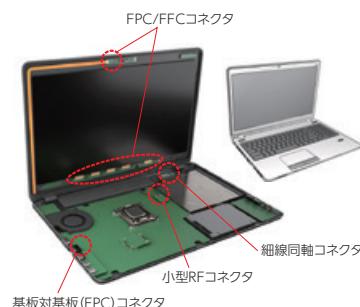


電気・電子部品事業

次代を感じて
つなぐチカラで
新しいフィールドを拓く。

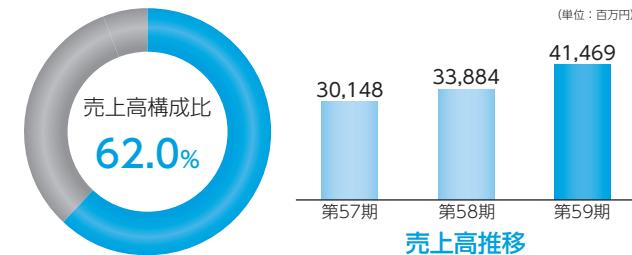
コネクタ

主にノートPC、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末向けにコネクタ(接続部品)を開発・製造し、世界市場に展開しています。最先端技術や規格に適合するコネクタをいち早く開発し市場をリードすることに力を入れており、USBやPCIeなどの高速インターフェイス規格、高精細ディスプレイ・カメラ、Wi-Fi6等のワイヤレス伝送などを採用する高性能電子機器に当社のコネクタが多数採用されています。5G、IoT、自動車、医療機器やロボット、ドローンなど幅広い市場において高速伝送ソリューションによりお客様のニーズにお応えしています。



超小型アクティブ光モジュール「LIGHTPASS™」シリーズを展開

高速データ通信が可能なスマートフォンやノートPCなどの普及に伴い、データセンターで扱うデータも飛躍的に増加し高速で処理することが求められています。それに伴い、データセンター機器内の信号伝送も高速化しており、電気信号に比べて大幅に伝送損失を低減し安定した高速伝送を可能にする光信号による伝送技術が注目を集めています。アクティブ光モジュールのLIGHTPASS™シリーズは超小型であるため、従来に比べよりプロセスに近い基板上で光電変換を行うことが可能にし、より高い伝送損失低減性能を発揮することができます。



HDD用機構部品

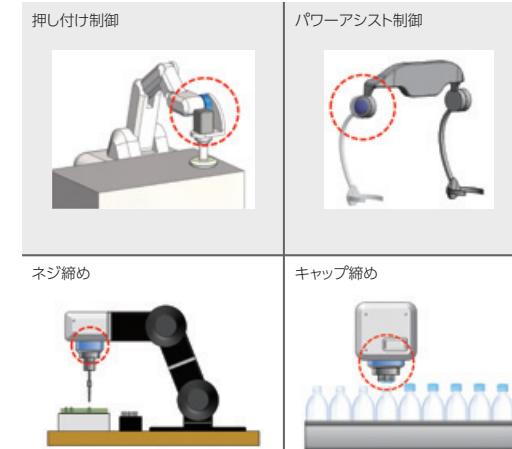
データセンター向けサーバーや監視カメラなどの記憶装置として、大容量化が進むHDD(ハードディスクドライブ)には今後も根強い需要が見込まれています。当社は、お客様との共同開発により世界で初めて量産化した超精密樹脂部品ランプなど、進化が続くHDDに不可欠の機構部品を供給しています。



静電容量型トルクセンサ

人協働ロボットの各関節に掛かるトルクや様々な装置の回転動作時に発生するトルクを検出し、制御するためのセンサです。静電容量方式を採用したシンプルな構造で、外部からの力を検知し、ロボットが自動で停止する“安全機能”により、人とロボットの協働作業を実現しています。

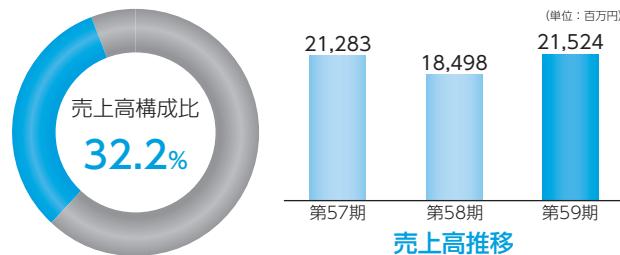
Electrostatic Capacitance Torque Sensor
ESTORQ





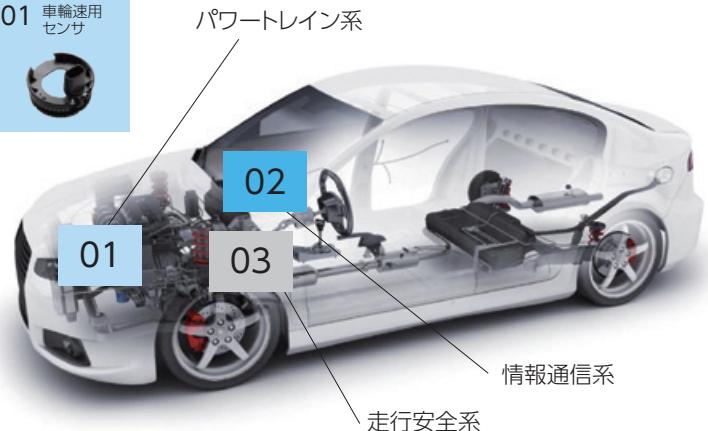
自動車部品事業

高い技術力に裏打ちされた
高品質な自動車部品を
安定的に供給。



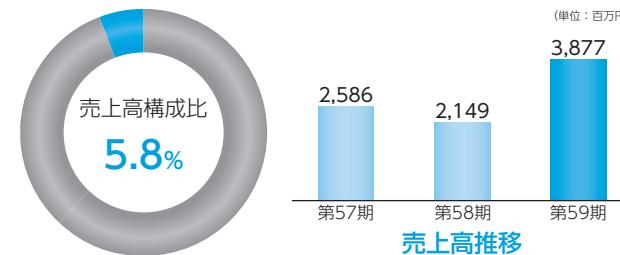
クルマは今や、電子機器の集合体といっても過言ではありません。安全かつ快適な走行のために過酷な条件下でも性能を維持する高感度センサが必需品となっています。また、衝突回避支援システムや自動運転技術の導入に伴い、さらに電子制御化が進むクルマには、コネクタ(接続部品)をはじめ、当社の電子部品が多数使用されています。当社は、長年培ったモールド、プレス、メッキ技術を活かし、クルマの安全を支えるコネクタやセンサを車載向けソリューションとし、提供しています。

車載用センサ・コネクタ



設備事業

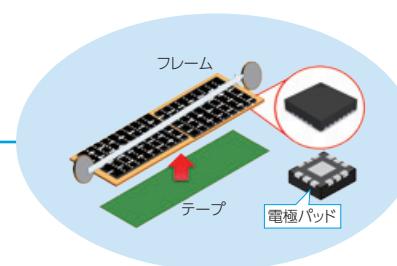
半導体生産に欠かせない
モールドングを
高精度かつスムーズに。



1980年、当社は精密金型技術を活かし、世界で初めて全自動半導体樹脂封止装置を発売しました。以来、国内外のお客様に装置を納入しながら技術の向上を図り、現在では半導体製造関連装置、樹脂成形周辺機器なども供給しています。大判化、薄型高密度などお客様の多用化するニーズにこれまで培った独自のソリューションでお応えし、PC、スマートフォン、自動車向けなど幅広く半導体の市場で実績と信頼を積み重ねています。

半導体製造関連装置

樹脂漏れ防止テープの貼り付け装置



TS-PRO

従来ワイヤーボンディング前にバックテープを貼り付ける事により発生していた、モールド時の樹脂漏れによる不良問題を解決できる唯一無二の装置として、業界シェア90%を獲得しています(特許取得済み)。

- 独自機構による実装フレームへの貼付** 台湾・中国・日本を中心に、標準プロセスとして採用
- 工程内製化によるコスト削減** 独自にバックテープを貼り付けることにより、QFNフレームコストの大幅削減に貢献
- 工程順序変更による不良削減** 従来の加工プロセスの見直しにより、歩留が大幅に改善

トピックス [TOPICS]

2021年にニオイセンサ「noseStick」の販売を開始



noseStick

ノーズスティック

スマホに接続して、身近なニオイを手軽に計測できるシンプルなモデル



nose@MEMS

ノーズメムス

さまざまなニオイの識別を実現するプロフェッショナルモデル

体験型プログラミング教室で地域貢献への取り組みを実施

I-PEXは、2021年9月に協業を開始したりビングロボット社とともに、I-PEXキャンパスにて、地元小学生に体験型プログラミング教室を行いました。今後も事業活動を通じて、地域への貢献と発展に取り組んでまいります。



「I-PEXキャンパス」がBELCA賞、日経ニューオフィス賞を受賞

I-PEXグループの中核拠点である「I-PEXキャンパス」が、歴史的建造物を活かした快適で機能的な新しいオフィスとして評価され、「BELCA賞ベストリフォーム部門」と「日経ニューオフィス賞」を受賞しました。歴史ある教育施設の「今と昔」を結び、社内外の垣根を越えた「人と人」を結ぶことにより、アイデアや閃きが生まれる開かれた拠点として、地域から愛される企業を目指してまいります。



BELCA賞

公益社団法人 ロングライフビル推進協会が主催する、長期にわたって適切な維持保全を実施し、優れた改修を行った既存の建築物のうち、特に優秀なものを選び、その関係者を表彰することにより、わが国におけるビルのロングライフ化に寄与することを目的とする表彰制度です。

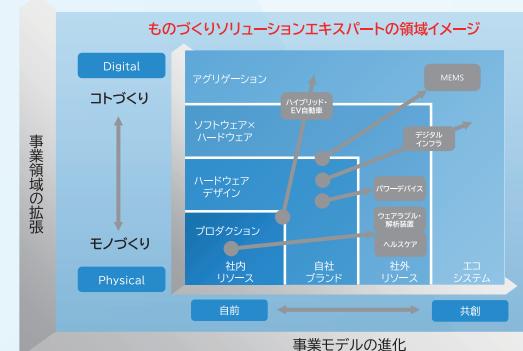
I-PEX Vision 2030 「デジタルなものづくり」を実践できる技術力を持つ企業へ

I-PEXは、2030年に目指す姿を示した「I-PEX Vision 2030」を策定しました。

ものづくりソリューションエキスパートとして、「デジタルなものづくり」を実践できる技術力を持つ企業を目指し、事業領域をモノづくりからコトづくりへ、事業モデルを自前から共創へと広げ、企業価値の向上と持続的成長を目指してまいります。



I-PEX Vision 2030の詳細はこちら



事業モデルの進化
<https://www.corp.i-pex.com/ja/ir/i-pex-vision-2030>

連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 2021年12月31日現在	前期 2020年12月31日現在
資産の部		
流動資産	41,139	35,925
固定資産	50,550	45,982
有形固定資産	47,023	43,341
無形固定資産	575	429
投資その他の資産	2,951	2,212
資産合計	91,690	81,908
負債の部		
流動負債	20,629	17,991
固定負債	14,284	14,401
負債合計	34,914	32,393
純資産の部		
株主資本	54,347	49,502
資本金	10,968	10,968
資本剰余金	10,513	10,513
利益剰余金	33,287	28,020
自己株式	△ 422	△ 0
その他の包括利益累計額	2,349	△ 44
非支配株主持分	77	58
純資産合計	56,775	49,515
負債純資産合計	91,690	81,908

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 2021年1月1日から 2021年12月31日まで	前期 2020年1月1日から 2020年12月31日まで
売上高	66,871	54,531
売上原価	44,315	37,584
売上総利益	22,555	16,947
販売費及び一般管理費	15,678	14,036
営業利益	6,877	2,911
営業外収益	1,186	681
営業外費用	358	920
経常利益	7,704	2,672
特別損失	412	822
税金等調整前当期純利益	7,292	1,849
法人税等合計	1,351	706
非支配株主に帰属する当期純利益(△は損失)	19	△ 8
親会社株主に帰属する当期純利益	5,921	1,151

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 2021年1月1日から 2021年12月31日まで	前期 2020年1月1日から 2020年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,809	9,195
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,946	△ 6,632
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,236	△ 2,558
現金及び現金同等物に係る換算差額	451	△ 468
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,078	△ 462
現金及び現金同等物の期首残高	11,719	12,182
現金及び現金同等物の期末残高	13,797	11,719

株式情報 / 会社情報

Stock Information / Corporate Profile

株式の状況

(2021年12月31日現在)

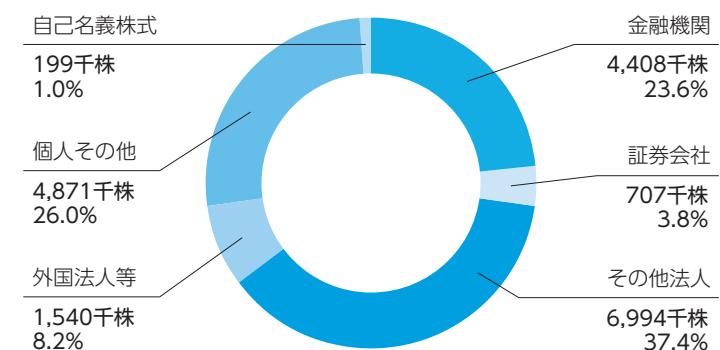
発行可能株式総数 35,000,000株
 (注) 2021年3月30日開催の第58期定時株主総会の決議に基づく定款の一部変更により、2021年3月30日付で、発行可能株式総数を20,000,000株から35,000,000株に変更しております。
 発行済株式の総数 18,722,800株
 株主数 7,927名
 大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ディー・エム・シー	6,821,400	36.83
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,648,100	8.90
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,566,000	8.45
I-PEX従業員持株会	568,380	3.07
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	474,300	2.56
小西 大樹	300,000	1.62
SMBC日興証券株式会社	221,700	1.20
日本証券金融株式会社	173,900	0.94
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	149,900	0.81
JP MORGAN CHASE BANK 385781	136,750	0.74

(注) 1. 当社は、自己株式を199,866株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2. 持株比率は自己株式(199,866株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

(2021年12月31日現在)



会社概要

(2021年12月31日現在)

商号 I-PEX株式会社
 設立 1963年7月10日
 本社所在地 〒612-8024
 京都市伏見区桃山町根来12番地4
 資本金 109億6,800万円
 従業員数 単体: 1,972名 連結: 5,667名
 主要取引銀行 京都銀行、三菱UFJ銀行、
 三井住友銀行、みずほ銀行

役員

(2022年3月29日現在)

代表取締役社長執行役員 土山 隆治
 取締役常務執行役員 緒方 健治
 取締役常務執行役員 原 昭彦
 取締役執行役員 小西 玲仁
 取締役(監査等委員) 橋口 純一 *
 取締役(監査等委員) 庭野 修次 *
 取締役(監査等委員) 若杉 洋一 *
 *(社外)